

軌道星隊シゴセンジャーの活躍と連携について

明石市立天文科学館 学芸員 井上 毅

1. はじめに



明石市立天文科学館は、1960（昭和 35）年 6 月 10 日に「時と宇宙の博物館」として開館した。

当館の位置は 1951 年の天体観測によって決定した天文経度の東経 135 度子午線上にある。天文科学館は 1910 年最初の子午線標識建設以来続く明石の先人の子午線に対する熱い想いの延長上に存在している。日本標準時の象徴として全国的な知名度を有する「明石ブランドの最たるもの」である。

1995 年の「平成 7 年兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）」では壊滅的被害を受けたが、危機を乗り越えて、3 年後再開し現在に至っている。震災復興のシンボルでもある。

館内にはプラネタリウムや展示室、天体観測室のほか、明石海峡を見渡すことができる展望室がある。これまでに 700 万人を超える来館者が当館を訪れている。2010 年は開館 50 周年、子午線標識設置 100 周年という大きな節目の年となる。

当館の使命は、「生涯学習の場として、日本標準時子午線、時、宇宙、科学に関する知見を人々が深める機会を提供すること」である。使命の遂行には、必要な調査研究・資料収集を行い、プラネタリウムや展示で反映させる努力を続ける必要がある。また観光としての期待も大きい。使命の遂行を通して、博物館としての実力を高めることが、観光資源としての魅力を高めることにつながると考えている。

2. 軌道星隊シゴセンジャーとは

軌道星隊シゴセンジャーは、明石の時を守るためにプラネタリウムに登場した正義のヒーローである。リーダーのシゴセンジャー・レッドと、よき相棒のシゴセンジャー・ブルーが、時を乱し宇宙を支配しようとする悪役・ブラック星博士と対決する。来館者や市民、関係者らの多くの支持を受け、天文や宇宙に関わる業界で広く知られる存在となった。

シゴセンジャーのデビューから 2 年が経過したときに天文雑誌「星ナビ」に寄稿した記事が分かりやすいので引用する。

☆☆☆

明石市立天文科学館のヒーロー「軌道星隊シゴセンジャー」

それは2005年ゴールデンウィークの明石市立天文科学館プラネタリウムでの出来事だった。子どもたちは、春の星たちの解説に静かに耳を傾けていた。

突然、夜空に巨大彗星が出現し、大音響。呆然とする観客。登場したのは黒装束にサングラスの怪しげな男。朝のなごやかな空気が一変した。「わははは！ワシはブラックホールからやってきたブラック星博士じゃあ！」大変だ！伝統ある明石のプラネタリウムが怪人に乗っ取られてしまった。ブラック星博士が叫んだ。「木星のアンモニアは臭い、もーくせいじゃ。」意味不明な解説によりプラネタリウムは混乱に。ついには天才バカボンの名曲で太陽を西から昇らせるというプラネタリウムの禁断の一撃に会場はカオス状態に。親の立場を忘れ、爆笑のあまり次々に大人たちがダークサイドに落ちていった。

そのときだった。「ちょっと待った！」ドームに洪い声が響いた。「青い地球を守るため、よいこの笑顔を守るため、やってきた！私はシゴセンジャー・ブルー！」

青い稲妻のごとく登場したシゴセンジャー・ブルーは太陽を正しい位置に戻した。安堵したのもつかの間、ブラック星博士の寒い駄洒落攻撃にブルーはお腹を壊しうずくまってしまった。心配そうに成り行きを見つめる子どもたち。そこに爽やかな声が聞こえた。

「真っ赤な夕日を守るため、きれいな星を守るため、やってきた！私はシゴセンジャー・レッド！」

燃える太陽のごとき熱き正義のヒーローのリーダー登場に会場の興奮は最高潮を迎えた。得意技は「シゴセンジャー・クイズ・アタック」。シゴセンジャーは天文クイズ攻撃によりブラック星博士を撃退した。こうして、よいこの笑顔は守られたのだった。このときからシゴセンジャーとブラック星博士の激闘がはじまった。

主題歌ができ、絵本などのグッズが登場した。グッズのひとつ6分の1スケールのペーパークラフトは明石市役所玄関を飾った。テレビや新聞などメディアが次々に取り上げていった。人気漫才コンビ、チュートリアルが取材にきたこともあった。人気が高まり活動の場が広がった。2006年12月に名古屋市科学館で開催されたプラネタリウム大会では全国の関係者がシゴセンジャーとブラック星博士の対決に沸いた。2007年3月には明石で夢のコラボレーション「ツァイス&メガスター」イベントが実施された。最初の公演はシゴセンジャーが務めた。ブラック星博士はメガスターを奪取するため、大平貴之氏そっくりの悪者「ドクター・ビッグ・フラット」の力を借りるも撃破されてしまった。初登場から2年。すっかり明石の名物となっ



たシゴセンジャー。愛知県豊川市のプラネタリウム遠征公演も実現した。ただの受け狙いのプラネタリウムではない。シゴセンジャーの願いは子どもたちに子午線の意義や宇宙の楽しさを知ってもらうこと。鍛え抜かれた肉体を包むプロテクターには135E（東経135度）が刻印され、腰に巻かれた日本標準時子午線を意味するJSTMマークのベルトがこだわりをみせる。そして2007年5月。今日もシゴセンジャーは明石の子どもたちに子午線の話をしている。そこに、ブラック星博士のテーマ曲が鳴り響く。ふたたび対決の時がやってきたようだ…。

（星ナビ2007年7月号 アstroアーツ社発行の記事より）

3. シゴセンジャー誕生エピソード

子どもたちには内緒であるが、軌道星隊シゴセンジャーは、プラネタリウム解説者が「変身」している。リーダーのシゴセンジャー・レッドは、鈴木康史（学芸員）。よき相棒のシゴセンジャー・ブルーは、藤田靖（指導主事）。時を乱し宇宙を支配しようとする悪役・ブラック星博士は、井上毅（学芸員）が「変身」している。

シゴセンジャーの原案は井上が2005年2月に提案した。井上は石川県柳田村の満天星天文台の「まんてん仮面」(*)にヒントを得て、プラネタリウムにヒーローが登場し、楽しく宇宙を語るというコンセプトを企画した。ヒーロー名は「子午線」に親しみを持ってもらうためシゴセンジャーとした。企画を鈴木が形にした。鈴木は、それまでにプラネタリウムの途中に演劇的な要素を挟み込むといった斬新な取り組みをおこなっていた。3月にはプラネタリウムの話の途中にガリレオとチコとケプラーに扮した職員が登場、満場から喝采を浴びていた。鈴木は実践で培ったノウハウをシゴセンジャーにつき込んだ。映像と効果音による演出や段ボールで自作したコスチューム、悪とタイズで戦う構成などを一から作り上げた。4月からメンバーに加わったのが藤田。小学校から当館に人事異動でやってきた。シゴセンジャーの企画を聞かされたとき最初の言葉「引継ぎ書になかったよ！」は今でも語り草となっている。藤田はプロフェッショナルな小学教師であった。現場で培われた児童対応の秘訣を使い、あっという間に子どもたちの心を驚つかみにしていった。

周囲の熱い応援がシゴセンジャーを育てていったことは特筆すべきである。当時の業務係長のアイデアで「軌道星隊」という冠がつけられた。職員の手によりシゴセンジャーの得意技やサイドストーリーも作られた。（その一部はマニアックすぎてシゴセンジャーのメンバーにも理解できないものもあるほどであった）プラネタリウムや音響操作など舞台裏の支えも職員が行っている。これらのメンバーを「チームS」と呼んでいる。星の友の会の会員をはじめとする常連のお客さんたちはほとんどサクラのように盛り上げてくれ、シゴセンジャーの登場を後押ししてくれた。ファンから主題歌の提案があり、やがてCDが作成された。グッズが増えていった。館長の影の奮闘もあり、明石市全体にシゴセンジャーを応援するありがたい雰囲気は生まれてきた。応援ブログも登場し、誰が書いているのか分からないが、ウィキペディアにもシゴセンジャーの項目が登場した。（それは当館のウェブサイトより正確で詳しい）やがて新聞やテ

レビ、ラジオなどメディアが次々に取り上げ応援してくれるようになった。

ブラック星博士の星型の頭がよれよれであることを気の毒に思った市の職員が、ブラック星博士の頭を新調してくれた。それがまた新聞記事になった。かわいらしいパペットを作成してくれた。人気を受けて商標登録をおこなった。人気が高まり活動の場が広がった。シゴセンジャーの活躍については「6. 2009年における連携活動」をご覧ください。

※正式名称 星空ろまん まんてん仮面。柳田村ケーブルテレビ（能登ケーブルテレビ）に登場した星の観察館満天星の正義の味方。サングラスにマスク、帽子にひらがなの「ま」が貼り付けてある。正体は満天星のM氏。実にアグレッシブな企画で、全国ローカルヒーロー図鑑にも掲載。

4. シゴセンジャーの典型的登場シーン

室町時代の世阿弥は花伝書で能や浄瑠璃の脚本構成上の3区分を「序」「破」「急」であると説いた。「序」は導入部、「破」は展開部、「急」は結末部である。経験を積むうちに落ち着いた我々の型は、この様式に従っている。シゴセンジャーのプラネタリウムの型を、伝統芸能の技法で理解してみよう。

☆シゴセンジャーが登場するプラネタリウムの典型的な流れ

導入部（序） 鈴木による星の話。日の入、満天の星空、テーマなど

展開部（破） ブラック星博士乱入
シゴセンジャー・ブルー登場、苦戦
シゴセンジャー・レッド登場、クイズ対決
ブラック星博士負ける

整理部（急） シゴセンジャー・レッド・ブルーによるまとめ

展開部において悪役とヒーローが次々に登場するという非日常空間を作り出す。ここでクイズ合戦をおこない、話を深めていく。楽しいやり取りやクイズで知らず知らずのうちに天文の話題になじんでいく。最後に悪役がやられた後、シゴセンジャーによるフォローの説明があり知識は整理される。こうしてストーリーはすすんでいく。試行錯誤を繰り返しているが、この型が最も適切であるようだ。

ここで注意して欲しいのは、シゴセンジャーやブラック星博士は関心を喚起する力が大変強いいため簡単に考えると導入で登場させると効果が高いと思いがちである。しかし実際には導入は普通に行ったほうが全体の空気を作りやすい。人気タレントとして長年活躍している萩本欽

一は著書「快話術—誰とでも心が通う日本語のしゃべり方（飛鳥新社）」の中で面白いオチをつくるための秘訣として、「フリはしずかにまっすぐと」と教えている。中途半端にキャラクターを出すとお客さんは「引いて」しまうのである。関心を引くことができるというその面だけに注目しがちであるが、シゴセンジャーという「手段」を、天文の知識や子午線の意義の普及といった「目的」にどううまく使うか。最大の効果を得るためにはどうすればよいか。我々がもっともこだわっている部分である。

5. シゴセンジャーによる連携

シゴセンジャーは人気者である。そのため連携の要請も多く、多様な連携をおこなっている。最初の重要な連携は地元・西明石駅南商店街の迷惑駐輪ナクスンジャーであった。ナクスンジャーはシゴセンジャーより半年早く登場した戦隊であった。我々は彼らの活動を知ったとき、できればコラボレーションの機会はないかと考えていた。話はうまく運び、2006年8月にイベントを開催しシゴセンジャーと連携を果たした。ナクスンジャーは当館の来館者に迷惑駐輪の廃絶を、シゴセンジャーは子午線の意義を子どもたちに語りかけた。このとき経験したコラボレーションによる効果は次のとおりである。

- (1) コラボレーションにより世間への関心を喚起すること
- (2) 関わりの少なかった集団に対し自分たちの存在をアピールすることができる
- (3) コラボを行った集団同士の友情が生まれる

といったことである。こうして科学館と商店街という地域の連携が実現したのであった。一方、連携の難しさを感じるケースもあった。ある小学校へ出向いたとき、子どもたちが学校の現場に現れたヒーローに興奮しすぎた。特にブラック星博士は子どもたちに袋叩きにあって、ぐちゃぐちゃな状態になってしまった。学校教育の現場では、シゴセンジャーは刺激が強すぎるという結論になっている。別のケースでは、イベントの着ぐるみショー的扱いで、参加者もほとんどおらず悲惨な状況であった。そもそも扱いの軽さとは別に、本来伝えるべきことが忘れ去られるようでは本末転倒である。いろんな経験を経てシゴセンジャーを登場させる場合、相手との協議を十分に行い、ただの客寄せではなく、子午線の意義や明石市立天文科学館のアピールになる事などを十分に確認することとなった。（初期の段階から連携がふさわしくない依頼ケースには感謝しながらも丁寧にお断りしている。）反省することも多いが、やってみて得られるものも多いのは確かである。経験を経て、シゴセンジャーを通して何を伝えたいかを十分議論し、宇宙、天文、子午線に関心を持ってもらうきっかけであることを意識するようになっている。

6. 2009年における連携活動

活動・連携の一例を下記に挙げる

- 1月4日(日) 18:00～19:30 「世界天文年2009 オープニングセレモニー」(10分程度)(県立ぐんま天文台) 主催:世界天文年2009日本委員会 共催:日本公開天文台協会、日本プラネタリウム協議会、国立天文台、各地のオープニングイベントを紹介。
- 3月8日 ラジオ関西「王様ラジオキッズ」にブラック星博士登場
- 2009年3月8日(日) 12:10～12:40 「あかし環境フェア」(明石市立産業交流センター) 主催:明石市環境部ごみ対策課
- 4月 明石ケーブルテレビ「教えてシゴセンジャー」開始。毎月1回放送。
- 2009年5月10日(日) 11:00～11:20 明石市立少年自然の家「春のオープンデー」(明石市立少年生前の家) 主催:明石市立少年自然の家
- 2009年6月14日(日) 11:00～ 「時のウィーク・メインデー『シゴセンジャーと遊ぼう』」(明石公園) 主催:時のウィーク実行委員会。市民球団レッドソルジャーズマスコット「ソルちゃん」と共演!
- 6月16日 関西テレビ「となりの人間国宝」にてシゴセンジャー紹介
- 6月21日(日)「全国天文キャラクターシンポジウム」開催。全国の天文9施設の名物キャラクターが集結。世界天文年ウェブサイトにも紹介される!
- 6月28日(日) 12:30～ 「投票に行こう!東播磨ふれあいステージ」(マイカル明石2番館<海の広場>) 主催:兵庫県東播磨県民局地域企画課
- 7月1日 学習用英語教材にてシゴセンジャーが日食について英語解説
- 7月4日(土) 11:00～12:00 「みなくる(子ども図書館)七夕イベント」(みなくる(子ども図書館)<明石市生涯学習センター8階>)
- 7月22日 ZIP-FM(名古屋)にブラック星博士電話出演
- 8月9日 TBS系全国ネット「走れポストマン」ブラック星博士の娘に日本中が笑いと涙



- 8月29日(土) 17:00～18:00 「シゴセンジャー&ブラック星博士 vs. 星のお兄さん&びわっちくん」会場：ラフォーレ琵琶湖プラネタリウム「デジタルスタードーム ほたる」※シゴセンジャーとブラック星博士が、星のお兄さん&びわっちくんと夢の競演。
- 8月30日(日) 16:15～17:30 「明石観光大使「時のプリンス」「時のプリンセス」最終選考会」会場：明石市民会館大ホール 主催：明石市・明石観光協会 ※明石観光大使「時のプリンス」「時のプリンセス」が誕生する日。明石のオールキャスト・人気者も全員集合。その後、「明石市民まつり 2009」会場：あかしオクトパステージ(市役所立体駐車場2階)市民まつり開催時刻：16:00～21:00 ※今年もシゴセンジャーが明石市民まつりに登場。
- 9月6日(日) 「救急フェア」(マイカル明石2番館<海の広場>) 主催：明石市消防署
- 9月12日(土) 「下水道展(シゴセンジャーとクイズであそぼう!)」(マイカル明石2番館<海の広場>) 主催：明石市下水道部
- 10月11、12日 ブラック星博士 愛知遠征豊川、安城、小牧、豊田のプラネタリウムに昨年に引き続き、遠征。
- 10月14日 慶応大学経済学部玉田ゼミにてシゴセンジャーの活動紹介
- 10月24日 国立天文台(東京都三鷹市)の一般公開にてブラック星博士登場。各所で狼藉
- 11月27日(金) 10:00～11:30 「明石警察署 年末特別警戒発隊式」会場：明石公園第一駐車場 ※シゴセンジャー・レッドとブルーが一日警察署長に。
- 12月6日(日) 16:00～17:00 「世界天文年2009 グランドフィナーレ」(兵庫県中央労働センター) 主催：世界天文年2009日本委員会 共催：兵庫県ほか
※天文キャラクターたちとともに世界天文年に関わった人たちの声を紹介。
- 12月18日(金) 明石タコフェリーにシゴセンジャー・レッド、ブルー、ブラック星博士がデザインされた「のりたい号」が就航
- 12月19日(土) 11:00～11:30 「クリスマス会」(クリスマス会開催時刻：10:30～13:00)(明石市生涯学習センター8階・学習室2) 主催：明石市福祉部 こども室児童福祉課



7. まとめ

昨日のように思い出す出来事がある。シゴセンジャーが登場するよりずっと前、「子午線」と書いてある看板の前で、母親が「こうしせん」と子どもに教えていた。「午」を「牛(ウシ)」と誤読しているのである。「子午線」の普及を使命とする館の学芸員である筆者は、少なからずその情景にショックを覚えた。しかしシゴセンジャーの人気とともにそのような誤読をする

人々はすっかりいなくなった。館の使命を軌道星隊シゴセンジャーは忠実に体現しているのである。彼らの活動の場は今後も広がっていくだろう。しかし決して満足しているわけではない。来館者からは出演機会の増加や新グッズの希望など要望も多いが、十分に応えきれていないことも事実である。活躍の可能性は宇宙のように想像以上に広がっている。時には傷つくこともあり、時にはマスクの下を感涙で濡らしながら、やがて日本中の、いや世界中の子どもたちが子午線を常識とする日を夢見て、これからもシゴセンジャーは戦っていくであろう。

The screenshot shows the IYA2009 website interface. At the top, it features the text "BEYOND INTERNATIONAL YEAR OF ASTRONOMY" and logos for the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO) and the International Astronomical Union (IAU). A navigation menu includes "Site Map", "Make it Happen", "Contact Us", "Subscribe", and "Google Custom Search".

The main content area displays a news article titled "Japanese astronomy superheroes rally in support of IYA2009" dated July 6, 2009. The article includes a photograph of several people in large, colorful costumes representing various astronomy-themed characters, gathered for an event. The photo has a banner in the background that reads "全国プラネタリウム大会・明石2009 記念イベント".

Below the photo, the text reads: "More than ten cartoon characters from planetaria and science museums in Japan gathered for the All-Japan Astronomy Character Symposium which was held on 21 June in Akashi. Present were many high-profile IYA2009 supporters, from superheroes to giant animals."

On the right side of the page, there is a search bar for "IYA2009 Updates" and a sidebar with statistics: National Nodes: 148, Organisational Nodes: 40, Organisational Associates: 33, National Websites: 111, Cornerstone Projects: 12, Special Task Groups: 11, Special Projects: 16, Official Products: 8, Media Partners: 22. At the bottom right, there is a "Global Sponsors" section.

(世界天文年のウェブサイトで紹介された天文キャラクターたち)